

特集 議会を傍聴して

今回は、NPO法人大滝まちづくりサポート（以下まちづくりサポート）理事長乗松良治さん、専務理事船橋俊雄さんお二人に議会を傍聴していただき、感想とご意見を伺いました。



乗松 良治さん

■それは、どのようなやり取りで感じましたか。

乗松 やり取りの中から具体的な方策があまり出なかったように思います。例えば、旧北湯沢温泉小学校跡地、優徳パークゴルフ場の休止後の利用策など、市が考えている活用策が何も出なかったし、引き出せなかったと感じました。

■伊達市に対する要望などありますか？

乗松 大滝の将来像を示して欲しいです。費用対効果一辺倒の考え方では、大滝の施設はすべて無くなってしまう。大滝では全く利用されていない合併特例債や大滝独自で使える過疎債を将来像に沿った形で利用するためにも大滝振興策が必要だと思えます。

船橋 議会としてのチェック機能や政策提言の役割が充分果たされているのかという感じを受けました。



船橋 俊雄さん

船橋 具体的な例を言いますと、大滝の道の駅フォレスト276をどう充実させるのかです。

当地で我々は冬にアイスクャンドル事業を展開していますが、道の駅のテナントなど関係者の総力を挙げた広がりがないかなかできないのが現状です。施設の改修を含めて伊達市には積極的に関与してほしいです。

また、大滝区内観光トイレを伊達市から委託を受けて維持管理しています。施設の老朽化に対して補修をしていないので、壁や天井材が欠け落ちてくるなど危険な状態になりつつあります。これも大滝区の観光の将来像の中で、整備するモノは整備して、必要ないものは廃止するなどの方策を示して欲しいです。

乗松 また、温泉を利用して冬の客を誘致できる施設、バイナリー発電施設を活用した全天候型サッカー場の建設を強く望みます。

バイナリー発電は、視察にも行ってきましたが、大滝の温泉の特性にあつた方法もあるはずだし、売電によって施設のランニングコストを賄う考え方もできます。

大滝の財産でもある温泉の有効利用も考えてほしいですね。

■そのために必要なことは何だと思えますか？

乗松 大滝区の振興を考えるプロジェクトチーム的なものを市で立ち上げて、大滝区内の事業者にも参加してもらい議論すると共に大滝のこれからを考える部署を作ってほしいです。

たとえば、農産物の加工場のものを整備するなどがあります。

船橋 伊達市側からの一方的な話ではなく、関係者がひとつのテーマについて建設的に話し合える場が必要です。過去にも、いろいろ

な会議がありました。総花的な話になって、将来像を見い出せませんでした。より具体的に、どの施設はどうしていくなどを市の担当者も含めて、関係者で話し合うべきだと思います。

■今議会では指定管理者の指定について議論がありました。その中では管理団体側の努力と工夫が足りないのではないかとという指摘もありましたが、そもそもまちづくりサポートは日頃どんな活動をされているのでしょうか。また議会の厳しい意見に対してどのように受け止めていますか。必要なことは何だと思えますか？

船橋 まちづくりサポートは、滝区の交流人口増加を図るために「まちづくり」に関わる事業を推進するために設立され、伊達市から2つの指定管理事業と3つの委託業務を含む13事業を展開しています。

パークゴルフ場やサッカー場の運営管理や観光トイレ、支所庁舎の清掃、「スポーツツーリズム」振

興や子ども向けの「クワガタふれあい」事業、冬の「アイスキャンドル」事業などが、その主なものです。

私たちの努力と工夫への厳しい意見は受け止めますが、委託された仕事を毎日滞りなく行っています。パークゴルフ場の利用者の激減が著しい状況の中でも優徳は若干収入増でしたが、大型ホテルの大改修とバス代の高騰が大きく影響しました。それを補うために理事長は札幌へ営業にも行っています。



「NPO法人 大滝まちづくりサポート」事務所

乗松 大きく入込数を減らした分を補うためにパークゴルフ三昧のセールスなど、集客の営業をしています。一度断られたからといって諦めることなく、粘り強い営業を心がけており、これからも頑張っていく予定です。

船橋 利用時間前のお客様には、自分が行って対応したり、後払いにしていたり柔軟な対応で利用者の増加に心がけています。

また、議会でも話題になったフェイスブックなどSNSは活用していきたいです。



■市長の答弁の中で、「企業研修」という言葉がキーワードになると思いますが、どう思いますか。

乗松 そうですね。企業研修の身を調査して、対応できる設備・人材研修が必要かもしれませんので、研究します。

■今回はお時間をいただき、ありがとうございました。

